



2026年3月期第3四半期 連結決算説明資料

(2025/4~2025/12)

公式X【東映公式ニュース】

https://x.com/TOEI_PR

公式LINE【東映IR News】

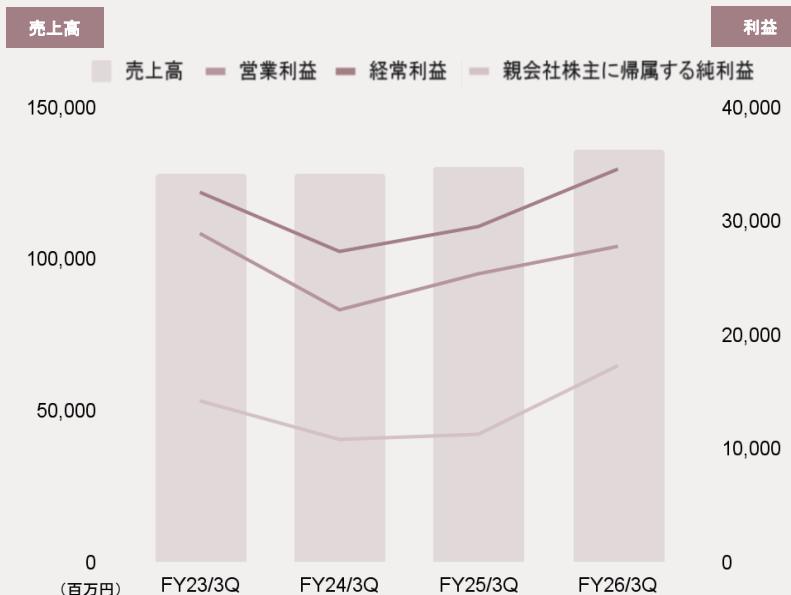
<https://lin.ee/5dETVtz>



(百万円)	FY23/3Q	FY24/3Q	FY25/3Q	FY26/3Q	前期比較	
売上高	128,160	128,286	130,410	136,347	5,936	4.6%
売上原価	74,598	78,528	75,990	76,548	558	0.7%
販管費	24,623	27,668	29,067	32,021	2,953	10.2%
営業利益	28,939	22,189	25,352	27,777	2,425	9.6%
経常利益	32,546	27,367	29,543	34,594	5,051	17.1%
親会社株主に帰属する純利益	14,220	10,782	11,298	17,272	5,973	52.9%

※FY=会計年度：FY26は2025年4月～2026年3月の期間

※百万円未満を切り捨てて表示しております。



2026年第3四半期連結決算の特徴

売上高

映画事業、コンテンツ事業の減少を受けて映像関連事業が前年同期比で減少した。一方、興行関連事業、建築内装事業が引き続き好調。また催事事業も堅調に推移。以上から前年同期比4.6%増となった。

営業利益

地代家賃、人件費、諸手数料等の増加により販管費が増加したものの、興行関連事業、建築内装事業が大幅増益。また、映像関連事業、催事関連事業、観光不動産関連事業も堅調に増益した。以上から営業利益は前年同期比9.6%増となった。

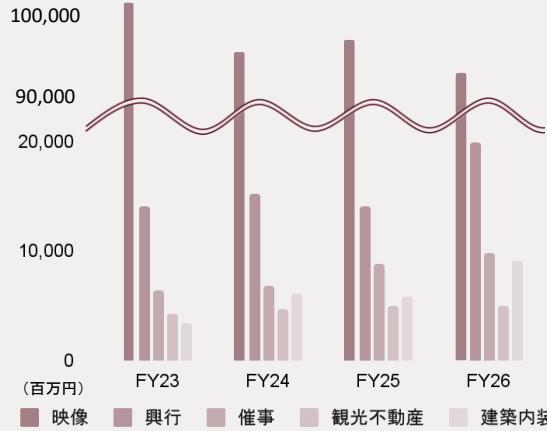
経常利益

持分法投資利益の増加に伴い、経常利益は前年同期比17.1%増加した。

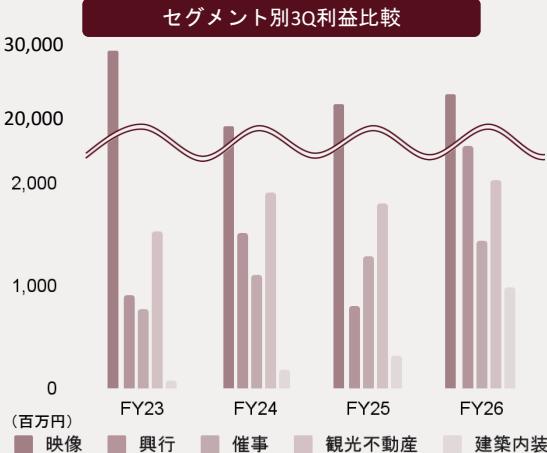
親会社株主に帰属する純利益

不動産売却益の特別利益の計上により前年同期比52.9%増となった。

セグメント別3Q売上高比較

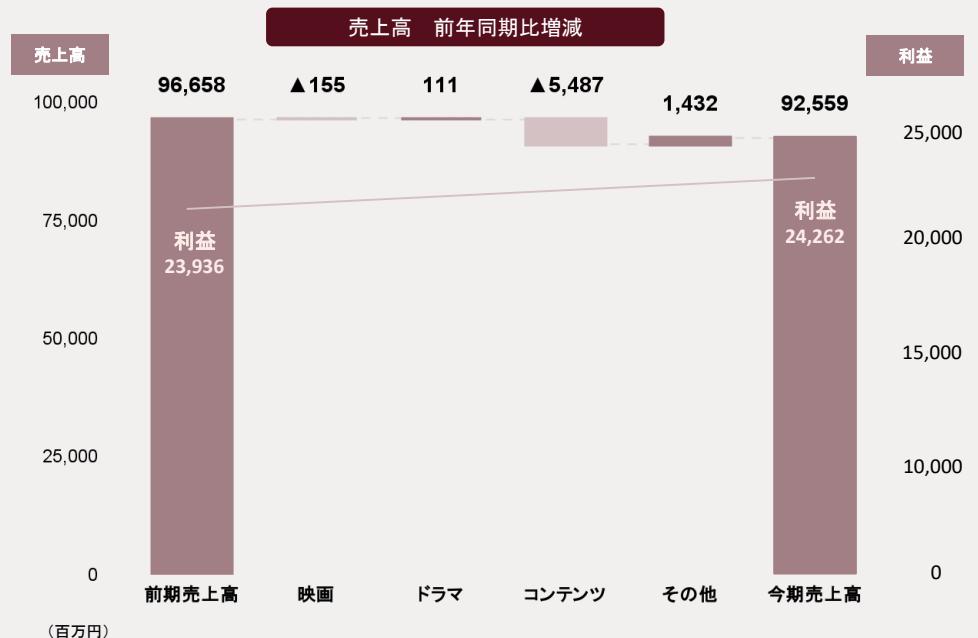


セグメント別3Q利益比較



セグメント	サブセグメント	FY25/3Q	FY26/3Q	増減	比較増減	セグメント割合	分析コメント
映像関連事業	映画	3,123	2,968	▲155	▲5.0%	3.2%	映画事業が前期ヒット作の反動減等から前年同期比減。また、コンテンツ事業の配信、アニメ版権が好調だった前年同期の反動減を受け、前年同期比減。
	ドラマ	7,351	7,462	111	1.5%	8.1%	
	コンテンツ	71,385	65,898	▲5,487	▲7.7%	71.2%	
	その他	14,798	16,230	1,432	9.7%	17.5%	
	売上高合計	96,658	92,559	▲4,098	▲4.2%	100%	
興行関連事業	利益合計	23,936	24,262	325	1.4%		『劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猪窓座再來』『国宝』『名探偵コナン 魔眼の残像』他の大ヒットにより大幅に增收増益。2024年9月開業のTジョイエミテラス所沢が引き続き好調稼働。
	売上高合計	14,161	19,949	5,788	40.9%	100%	
	利益合計	800	2,358	1,558	194.7%		
催事関連事業	催事	7,365	8,556	1,191	16.2%	87.3%	『超クウガ展』『全スーパー戦隊展』他の催事における動員・物販が好調。映画村はリニューアル工事によるエリア縮小が影響し減収減益。
	映画村	1,443	1,250	▲193	▲13.4%	12.7%	
	売上高合計	8,808	9,807	998	11.3%	100%	
観光不動産事業	利益合計	1,288	1,432	143	11.2%		不動産賃貸業、ホテル業とともに堅調に推移。
	不動産賃貸	3,380	3,243	▲137	▲4.1%	66.1%	
	ホテル	1,582	1,664	81	5.2%	33.9%	
建築内装事業	売上高合計	4,962	4,907	▲55	▲1.1%	100%	大型工事の完成納品に伴い增收増益。
	利益合計	1,808	2,032	223	12.3%		
	売上高合計	5,819	9,123	3,304	56.8%	100%	
	利益合計	322	991	669	207.8%		
	売上高合計	130,410	136,347	5,936	4.6%		
	利益調整額	▲2,804	▲3,299	▲495			
	利益合計	25,352	27,777	2,425	9.6%		
	(百万円)						

映像関連事業	(百万円)		FY25/3Q		FY26/3Q		増減比率	
	売上高	96,658	92,559	▲4,098	▲4.2%			
	利益	23,936	24,262	325	1.4%			



公開日	興行収入 (2025/12末時点)	作品名
4月25日	6.3億円	『花まんま』
6月27日	5.4億円	『でっちあげ～殺人教師と呼ばれた男』
7月25日	6.5億円	『映画『仮面ライダーガザ お菓子の家の侵略者』』 / 『映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー復活のテガソード』』
9月12日	12.0億円	『映画キミとアイドルブリキュア♪お待たせ!キミに届けるキラッキライブ!』
9月19日	6.8億円	『宝島』
11月14日	2.4億円	『港のひかり』
12月5日	3.3億円	『ペリリュー～楽園のゲルニカ～』
12月19日	3.2億円	『楓』

映像関連事業の分析

▶ 映画事業

配給収入の減少により売上高減となった。

▶ コンテンツ事業

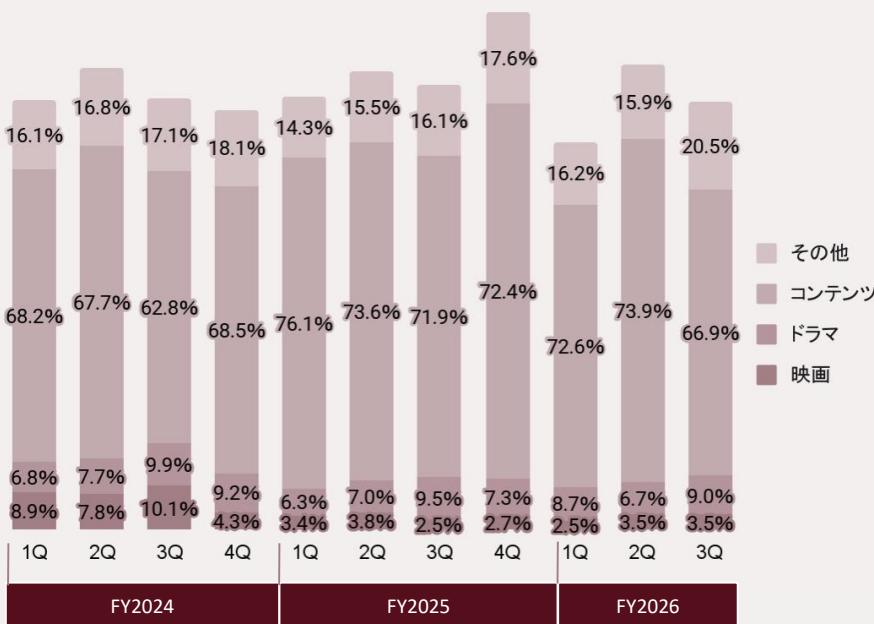
アニメ作品は、海外ゲーム化権・商品化権販売が好調だったが、
国内の配信権販売や商品販売の反動減により減収となった。

実写作品は、『室町無頼』他新作の国内配信権販売が好調だった。

サブセグメント別売上高比較

(百万円)	FY25/3Q		FY26/3Q		増減比率
	映画	3,123	2,968	▲155	▲5.0%
映像関連事業 サブセグメント 売上高	ドラマ	7,351	7,462	111	1.5%
	コンテンツ	71,385	65,898	▲5,487	▲7.7%
	その他	14,798	16,230	1,432	9.7%

サブセグメントシェア推移



映像関連事業のサブセグメント別分析

映画

『映画キミとアイドルプリキュア♪お待たせ！キミに届けるキラッキライブ！』が高稼働したものの、『帰ってきたあぶない刑事』のヒットがあった前年同期と比べ配給収入が減少し、前年同期比減。

ドラマ

アニメ作品は前年同期と比較して放映作品数が減少。

実写は旧作の企業広告へのキャラクターライセンス、ゲーム化権が堅調に推移。

コンテンツ

▶ 国内

アニメは、前年同期に好調だった『THE FIRST SLAM DUNK』『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』等の国内配信権販売の反動減。また『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズの商品化権販売・ゲーム化権販売が前年同期比減。

実写は『室町無頼』等新作の配信権販売が好調。

▶ 海外

『ワンピース』の商品化権販売、『デジモンアドベンチャー』シリーズの商品化権販売・ゲーム化権販売が好調。配信は『ワンピース』が好調だったものの『ドラゴンボール』シリーズの配信・放映権販売が反動減。

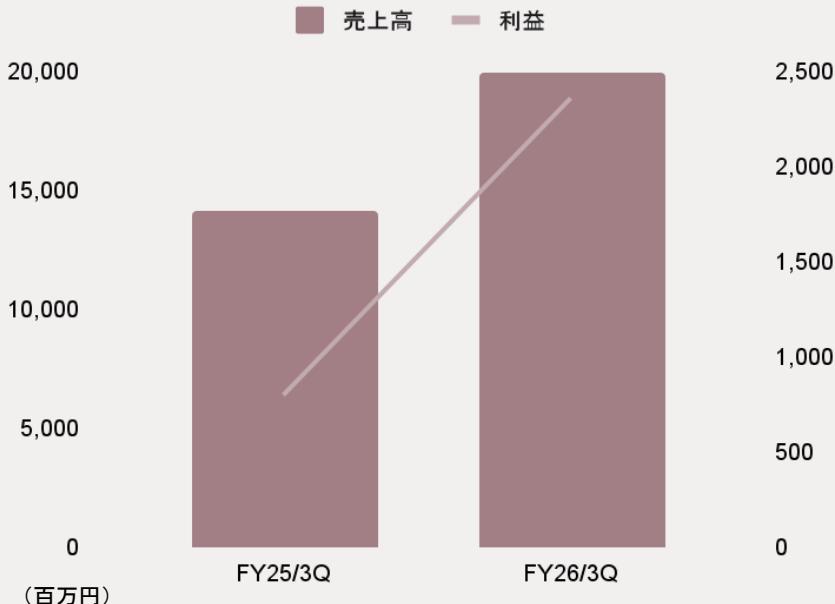
その他

『ドラゴンボール』シリーズ・『プリキュア』シリーズ等のショップ事業が好調に稼働したものの、『スラムダンク』の商品販売が反動減。アニメの催事等は好調に稼働。

(百万円)	FY25/3Q	FY26/3Q	増減比率		
	売上高	14,161	19,949	5,788	40.9%
興行関連事業	利益	800	2,358	1,558	194.7%

興行関連事業の分析

株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（共同経営・共同運営）の運営が中心。



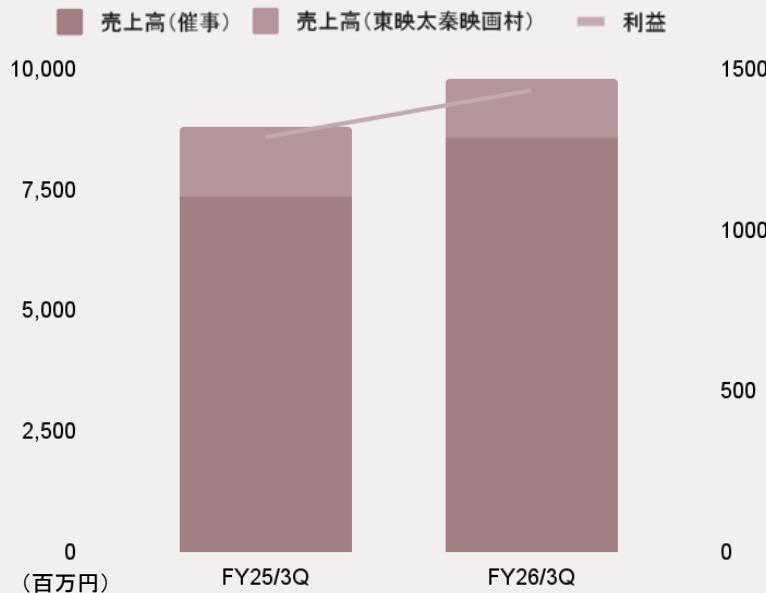
23サイト230スクリーン体制（2025年12月末現在）で展開。

※東映株式会社の直営館は2025年7月27日をもってすべて閉館

『劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猪窓座再来』『国宝』が大ヒットし、また『名探偵コナン 隻眼の残像』『劇場版 チェンソーマン レゼ篇』『ズートピア2』等が高稼働した。加えて2024年9月に開業したT・ジョイ エミテラス所沢が好調となり、売上高が増加。

販管費は劇場売上増による変動家賃等により増加したが、増収により前期比で利益が増加。

	(百万円)		FY25/3Q	FY26/3Q	増減比率
	売上高	利益			
催事関連事業	8,808	1,288	9,807	1,432	998 11.3%
					143 11.2%



催事関連事業の分析

サブセグメント別売上高比較

	(百万円)		FY25/3Q	FY26/3Q	増減比率
	催事	東映太秦映画村			
催事関連事業	7,365	1,443	8,556	1,250	1,191 16.2%
					▲193 ▲13.4%

催事

・イベント事業

『超クウガ展』『全スーパー戦隊展』『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』『爆上戦隊ブンブンジャーファイナルライブツアー2025』『仮面ライダーガヴァファイナルステージ』『キミとアイドルプリキュア』（各種フロア催事）等が好調。また、催事の動員に加え物販が好調。

・商品事業（劇場商品、ECサイト、仮面ライダーストア）

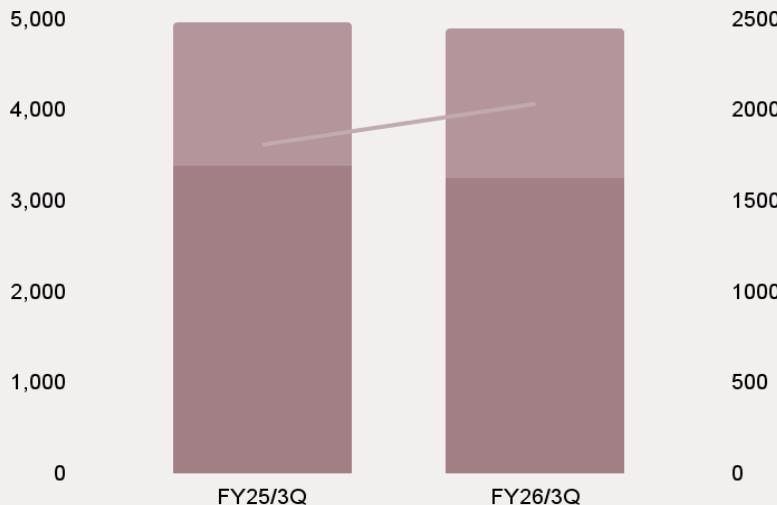
劇場関連商品は、ヒット作に恵まれた前年同期の反動減があった一方、仮面ライダーストア及びECサイトは好調。

東映太秦映画村

9月～11月に実施した『怪々YOKAI祭』が好稼働したものの、大阪万博や夏期の酷暑の影響、及びリニューアル工事に伴うエリア縮小により減収。

(百万円)			増減比率	
	FY25/3Q	FY26/3Q		
観光不動産事業	売上高	4,962	4,907	▲55 ▲1.1%
	利益	1,808	2,032	223 12.3%

■ 売上高(不動産賃貸) ■ 売上高(ホテル) ■ 利益



(百万円)

観光不動産事業の分析

サブセグメント別売上高比較

(百万円)	FY25/3Q	FY26/3Q	増減比率
観光不動産事業	不動産賃貸	3,380	3,243
	ホテル	1,582	1,664

不動産賃貸

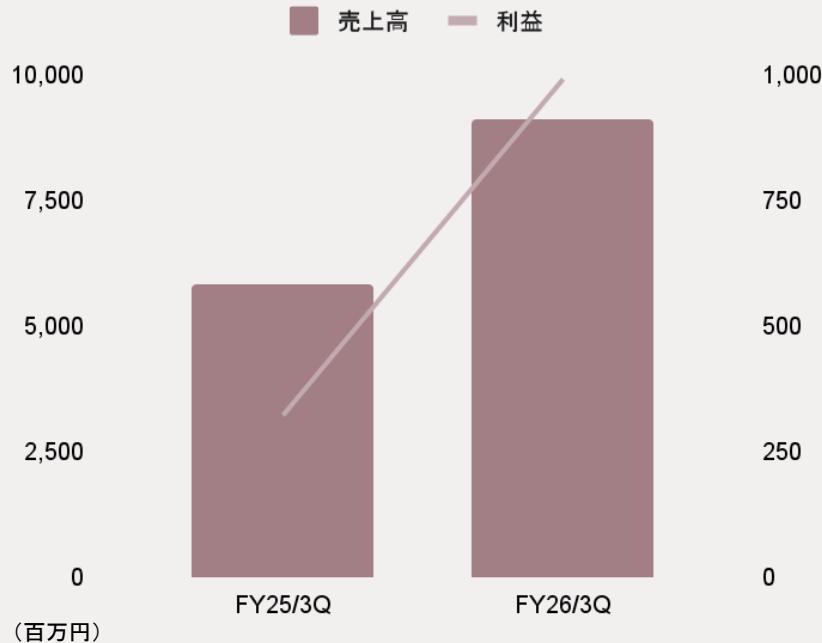
賃貸運営は堅調に推移。一方、テナントの入れ替えによる家賃減額期間があったため減収。

ホテル

インバウンド需要を背景に稼働率が向上。福岡東映ホテルが好調に推移し増収。

(百万円)	FY25/3Q	FY26/3Q	増減比率
建築内装事業	売上高	5,819	9,123
	利益	322	991
		3,304	56.8%
		669	207.8%

建築内装事業の分析



シネマコンプレックスの改裝工事をコンスタントに受注。また、マンション建設工事、老健施設、商業モールのテナント工事等の増加に伴い大幅に増収。
資材費が高騰する中、原価および販管費を適切にコントロールした結果、前年同期を上回る利益を確保した。



p 10 映画月間興行収入

p 13~p 15 作品ラインナップ

映画 P13

テレビ P14

配信・催事 P15

p 11 東映グループ統合報告書 2025

p 16 東映グループのビジネスモデル

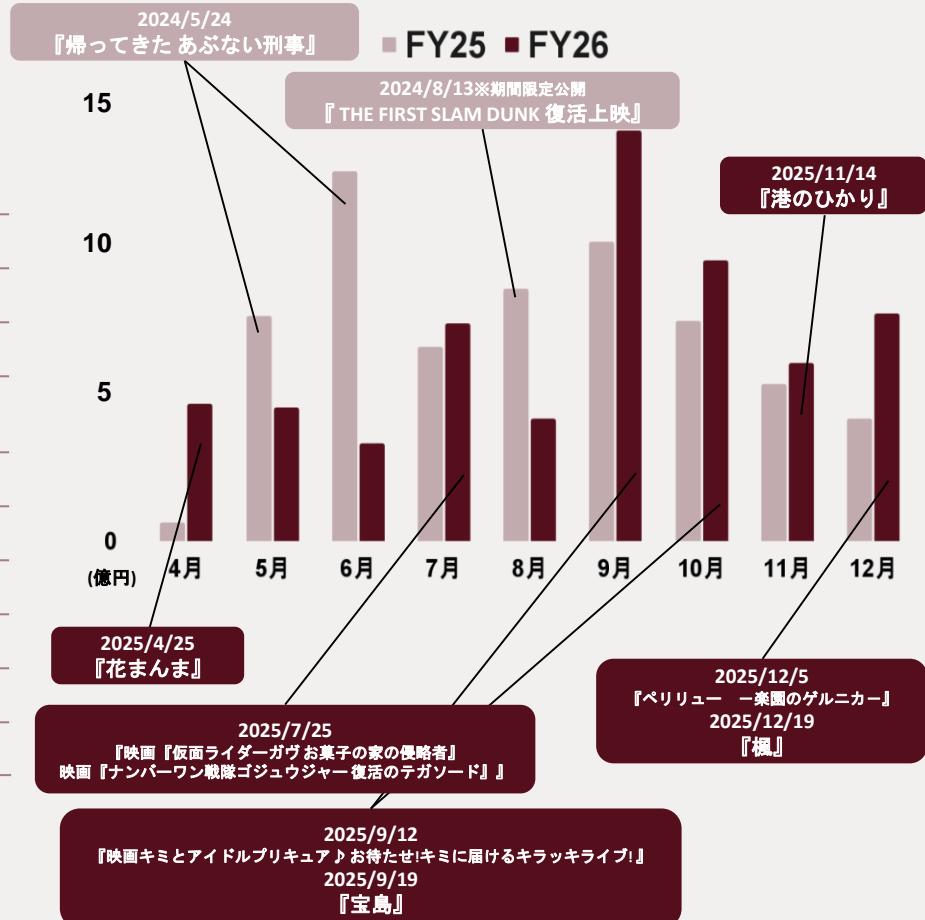
p 12 長期保有株主優待

p 17 中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

月間興行収入 一覧

(億円)	FY25	FY26	前年度比	FY26月別の主な稼働作品
4月	0.6	4.6	770.8%	『花まんま』『35年目のラブレター』 『映画おしりたんていスター・アンド・ムーン』
5月	7.6	4.5	59.0%	『花まんま』『35年目のラブレター』『BADBOYS -THE MOVIE-』
6月	12.6	3.3	26.2%	『でっちあげ～殺人教師と呼ばれた男』 『BADBOYS -THE MOVIE-』『花まんま』
7月	6.6	7.4	112.4%	『でっちあげ～殺人教師と呼ばれた男』 『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』』 / 『映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』』 / 『この夏の星を見る』
8月	8.6	4.1	48.5%	『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』』 / 『映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』』 / 『ChaO』『この夏の星を見る』
9月	10.2	14.0	137.1%	『映画キミとアイドルプリキュア』お待たせ!キミに届けるキラッキライブ!』『宝島』『映画『仮面ライダーガヴ』『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー』』
10月	7.5	9.5	127.3%	『映画キミとアイドルプリキュア』お待たせ!キミに届けるキラッキライブ!』 『宝島』『THE FIRST SLAM DUNK 2025 in cinema』
11月	5.3	6.0	112.8%	『港のひかり』『劇場版『ゾンビランドサガ ゆめぎんがパラダイス』』 『劇場版純集編 ガールズバンドクライ【後編】 なあ、未来。』
12月	4.1	7.7	185.6%	『ペリリュー -楽園のゲルニカ-』『楓』 『劇場版純集編 ガールズバンドクライ【後編】 なあ、未来。』
合計	63.1	61.1	96.8%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。





『東映グループ統合報告書2025』を2025年12月15日に開示いたしました。

本報告書では、当社グループの使命である「愛される『ものがたり』を全世界に」の実現と、東映グループ中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」に描いた“ありたい姿”を目指す当社グループの取り組みについて紹介しております。トップメッセージや価値創造ストーリー、マテリアリティ（重要課題）への対応などを通じて、当社グループの強みである企画製作力やマルチユース展開力が、いかにして新たな価値創造やグローバル展開につながっているかをご理解いただける内容となっています。

当社グループは、今後もステークホルダーの皆様との「対話」を深めるための透明性の高い情報開示に努め、さらなる企業価値向上を目指してまいります。

『東映グループ統合報告書2025』主要なトピック

- CHAPTER.01 東映グループの成長の軌跡や業績ハイライト
- CHAPTER.02 価値創造ストーリー（トップメッセージ、事業紹介など）
- CHAPTER.03 重要課題（マテリアリティ）
- CHAPTER.04 ガバナンス（社外取締役メッセージなど）
- CHAPTER.05 会社情報（財務・非財務ハイライトなど）

東映グループ統合報告書2025 ▶▶ <https://www.toei.co.jp/ir/index.html>



この度、長期にわたり当社株式を保有いただいている株主への感謝の意を込め、長期保有株主優待として以下のとおり年間を通した抽選イベントの実施を予定しています。

1. 2026年3月末時点の長期保有株主対象（抽選）

（1）グッズの進呈

内容：「超宇宙刑事ギャバンインフィニティ」オリジナルグッズ

応募時期：2026年4月

発送時期：2026年5月

（2）東京撮影所見学ツアー

内容：当社東京撮影所における施設見学ツアー

応募時期：2026年7月

開催時期：2026年8月下旬

募集人数：10組20名程度

2. 2026年9月末時点の長期保有株主対象（抽選）

（1）映画試写会へのご招待

内容：当社配給作品の試写会チケット

応募・開催時期：2026年度内

募集人数：10組20名程度

（2）グッズの進呈

内容：当社関連作品オリジナルグッズ（内容未定）

応募・発送時期：2026年度内

※全て抽選イベントになります。

※本ご案内は、現時点での予定であり、やむを得ない事情により内容・実施時期等が変更となる場合がございます。

※各イベントの応募方法、抽選方法、詳細な条件等につきましては、開催時期が近づき次第、改めて当社ホームページ、LINE IR NEWS等にてご案内申し上げます。

※対象になるのは、毎年3月末・9月末現在の当社株主名簿に、同一株主番号で3回以上連続して1単元（100株）以上の保有株式数が記載または記録された株主です。

映画

▶ 2026年

- 2月13日 劇場版『僕の心のヤバいやつ』
- 2月27日 『木挽町のあだ討ち』
- 4月29日 『アギト超能力戦争ー』
- 6月19日 『免許返納!?』
- 11月13日 『楽園追放 心のレゾナンス』
- 秋以降 『高校生家族』

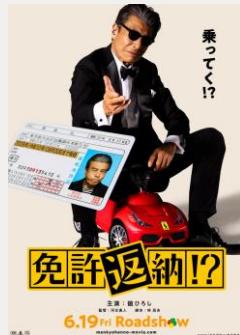


**仮面ライダースーパー55周年企画作
『アギト超能力戦争ー』**

平成以降の仮面ライダー作品の中で最高平均視聴率(11.7%)を記録した『仮面ライダーアギト』の新作映画。既存の枠にとらわれない新機軸の作品で、大人が楽しめるアクション大作。

▶ 2027年

- 公開予定 『存在のすべてを』



存在のすべてを
2027年 全国公開

実写

- 放送中 『仮面ライダーゼツ』（テレビ朝日系）
- 放送中 『相棒season24』（テレビ朝日系）
- 放送中 『仮面の忍者 赤影』（テレビ朝日系）
- 2月15日～ 『超宇宙刑事ギャバンインフィニティ』（テレビ朝日系）
- 2月20日～ 『ながたんと青と-いちかの料理帖-2』（WOWOW）

アニメーション

放送中

- 『科学×冒険サバイバル！』（NHK Eテレ）
- 『DIGIMON BEATBREAK』（フジテレビ系）
- 『名探偵プリキュア！』（ABC・テレビ朝日系列）

【PROJECT R.E.D.】始動 第一弾は『超宇宙刑事ギャバンインフィニティ』



1975年から50年間続いた「スーパー戦隊」シリーズに続き、新たに始まる特撮シリーズ【PROJECT R.E.D.】。今後放送されるさまざまな作品がクロスオーバーすることで、多面的な展開を予定しています。

第一弾『超宇宙刑事ギャバンインフィニティ』は、1982年～83年に放送された『宇宙刑事ギャバン』の革新性を受け継ぎつつ、最新の映像表現と演出手法によりゼロから構築された、まったく新しい「ギャバン」です。



参考資料 今後の作品ラインナップ 配信・催事

配信

- 配信中 『仮面ライダーヴラム ルートストマック』
 配信中 『仮面ライダーゼット SERIES OF SISTER'S SUBSTORY エージェント美浪』
 配信中 『ゴジュウジャー補ジュウ計画 ナンバーワン懺悔室』
 配信中 『仮面ライダーアインズ withガールズリミックス』
 2026年 『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー ポーラー・ビギニング』

(全て東映特撮ファンクラブ (TTFCL) にて)

- 『ブルックリン博物館所蔵 特別展古代エジプト』 2025年12月～ 福岡、大阪、長野ほか
 『スキップとローファー展』 2026年1月～ 愛知、大阪、石川ほか
 『ほねほねザウルスワールド』 2026年3月～ 福井ほか
 『松本零士展 創作の旅路』 2026年3月～ 愛知ほか
 『全スーパー戦隊展』 2026年4月～ 福岡ほか
 『シルバニアファミリー展40th』 2026年4月～ 静岡、香川、福岡、大阪、鹿児島ほか
 『真アギト展』 2026年4月～ 東京ほか

催事

ショー・舞台

- 『キミとアイドルプリキュア♪感謝祭』 2026年2月 東京
 『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー ファイナルライブツアー2026』 2026年3月～
 愛知、北海道、広島、福岡、宮城、静岡、長野、新潟、大阪

商品

- ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー POP UP SHOP 2026年1月～ 東京、宮城、大阪
 仮面ライダーストア TOKYO/OSAKA 東京、大阪



①自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

▶劇場映画 4,400作品以上

▶テレビ映画 39,000話以上

▶配信映画 600話以上

オリジナル



原作もの



映像製作インフラ

▶撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所

京都撮影所

映像研究



ツーコン研究所

ポスプロ



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

②マルチユース展開

▶劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTubeOfficial

③作品をフランチャイズ化することで接点を増加 IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね



利益の積重ね



IP

接点増加

To the World , To the Future

—「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ—

経営ビジョン2033

2026年で目指す姿

実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する

東映グループの強み

企画製作力 : マルチユース展開

成長戦略

実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する

重点施策

1 映像事業収益の最大化

- 企画製作力の強化
- コンテンツのマルチユース促進
- IPライフサイクルの長期化

2 グローバル展開へのチャレンジ

- グローバルメジャーと共同開発・世界展開
- 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作

3 映像事業強化のための人的投資の拡大

4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化

- 事業基盤強化に向けた投資戦略
- コーポレートガバナンスの強化
- サステナビリティへの取り組み
- 資本・財務戦略

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室
MAIL : keisen_koho@toei.co.jp
担当 : 内藤 奥本 加藤